

こども

子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします

ひつじかいの
しょうねん
少年、ダビデ



^{ぶん}
文: E. Duncan Hughes

^え
絵: Lazarus

^{かいさくしゃ}
改作者: Ruth Klassen

^{ほんやくしゃ}
翻訳者: Yuko Kajiki
監修者: Dan Ellrick

^{しゅっぱんしゃ}
出版社: Bible for Children
www.M1914.org

©2007 Bible for Children, Inc.

^{きよか} ^{たにん} ^う ^{かぎ} ^{はなし} ^{また}
許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、
^{きよか}
許可されています。



ずっとむかし、まだサウルがイスラエルの王さまだったときのお話です。ダビ
デという名の男の子がいました。ダビデは、7人のお兄さんを手伝ってお父さ
んのヒツジやウシの世話をしていました。かれは、いちばん末っ子ですがけれど、
とてもつよく、勇気のある少年でした。それに、いつも神さまを愛しころか
ら信じていました。その子は、

ベツレヘムをいう町にすん
でいましたよ。

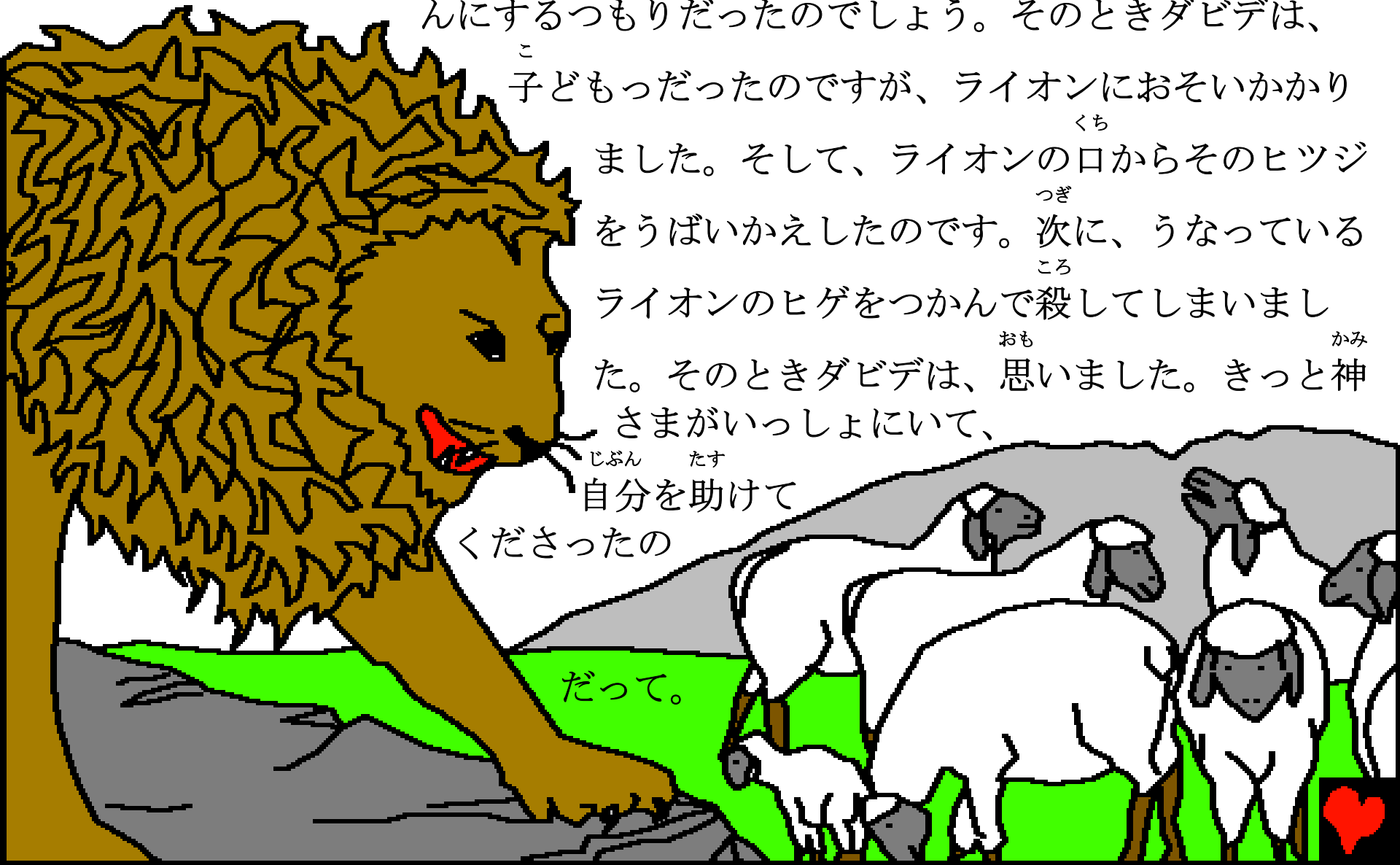


いちど、こんなことがありました。ライオンがヒツジのむれをおそって、小さな
子ヒツジをつかまえてしまいました。ライオンは、きっとヒツジを自分の晩ごは
んにするつもりだったのでしょ。そのときダビデは、

子どももつだったのですが、ライオンにおそいかかり
ました。そして、ライオンの口からそのヒツジ
をうばいかえたのです。次に、うなっている
ライオンのヒゲをつかんで殺してしまいまし
た。そのときダビデは、思いました。きっと神
さまがいっしょにいて、

自分を助けて
くださったの

だって。



かみ

しゃ

かな

そのころ、神さまのよげん者サムエルは、まだサウルのこと、悲しくてたまりません。なぜなら、サウルは、すっかり神さまからはなれてしまったのですから。「いったい、いつまでサウルのこと、でなげくつもりなのか。」

かみ

い

神さまは、こう言ってサムエルをしかったです。「サムエル、わたしはあなたをエッサイのところにつかわそう……。それは、わたしがエッサイのむすこの1人を次の王としてかんがえているからだ。」



じつはね、エッサイという人は、ダビデのお父さんでした。サムエルは、神さま
の言われることにしたが、もうひとりの王さまをさがしに行くことにしまし

た。でも、もしサウル王がそのことを知ったら、たいへんなこと
ですね。サムエルをころすかもしれません。けれども、
よげん者サムエルは、神さまにしたがいました。





まち
サムエルがエッサイのいる町についてと
じぶん
き、エッサイは自分の7人のむすこたちに
まえ ある
サムエルの前を歩かせました。ところが、
み い
サムエルはかれらを見て言いました。

しゅ
「エッサイ、主がえらばれたのは、このむ
すこたちじゃありません。」このとき、ダ
ビデだけここにいませんでした。ダビデ
は、ちょうどヒツジのせわをしていたから
にい
です。そこで兄さんたちは、ダビデをへや
なか
の中につれてきましたよ。すると、主がす
しゅ
ぐにサムエルにこたえられました。「立ち
た
なさい。そしてかれに油をそそぎなさい。
あぶら
まさに、この人こそ主がえらばれたもので
ひと しゅ
ある。」



さて、そのころサウルのおしるは、いったいどうなっていたでしょう。じつは、
主の霊しゅ れいがサウルからすっからはなれてしまい、かれの心には安らぎやすやよろこびが
ありません。 サウルつかのめし使おもいたちは、こう思いました。

もし、サウルがうつくしい音楽おんがく きを聞いたな
ら、かれの心はおちつきつか、やさしくなる
かもしれないと。めし使つかいの1人が、
ハープをととてもじょうずにひく
わかい男おとこ ひと しの人を知っていま
した。みなさん、その人ひとは
だれかわかりますか。
そうなのです。その人ひとは
ダビデですよ。



ダビデのそのうつくしい音楽は、サウルの心を安心させ、
ものごとを正しく考えられるようにしてくれます。

サウルは、ダビデのお父さんエッサイにたのみましたよ。

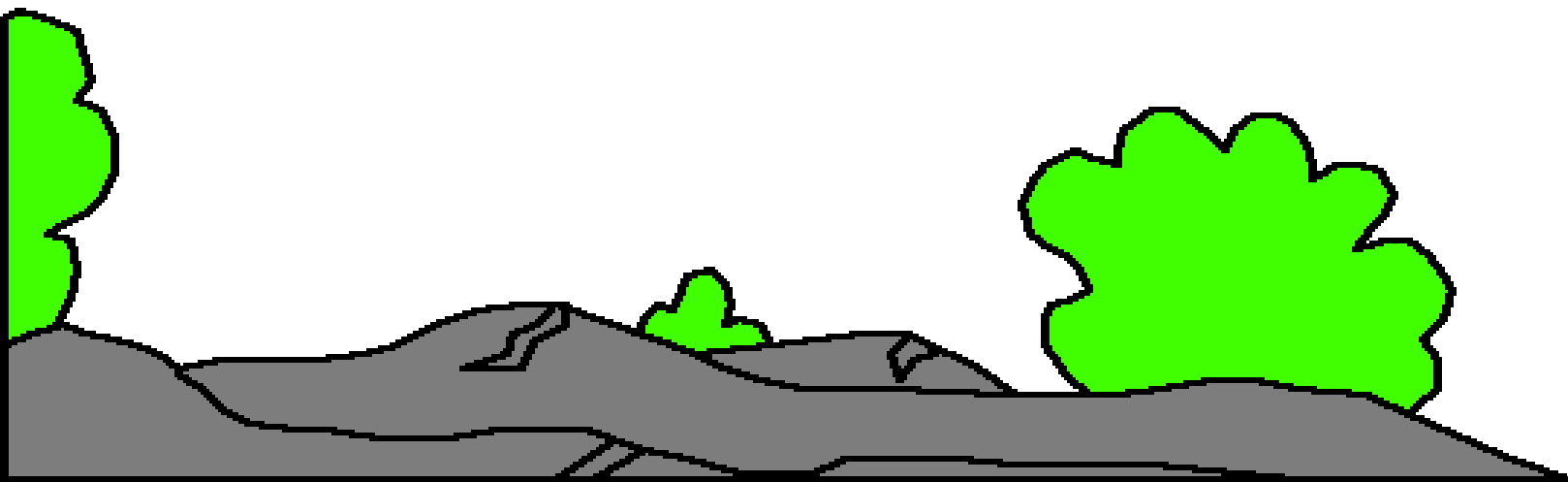
「ぜひ、ダビデをわたしに仕えさせ、このお城に住ま
わせてくれ。」 それからは、サウルが、いろいろ

なことを心配して元気がなかったり、おそれたり
するときは、いつでもダビデがハープをひき

ました。それを聞くと、サウルの心は
おちつくのでした。



ダビデが^{とう}お父さんのうちへ へ かえってからのことです。サウルとペリシテ人^{じん}との
あいだに^{おお}大きなたたかいはじまりました。ダビデの兄^{にい}さんたちは、サウル^{ぐん}の軍
たい^{はい}に入り、ペリシテ人^{じん}とたたかいましたよ。エッサイは先^{せん}とうに立^たってたた
かっているむすこ^{しんぱい}たちが心配^{にい}です。「ダビデ、兄^{にい}さんたちに食^たべものをもつて
い^みって、どうしているか見^みてきておくれ。」エッサイは、こう言^いってダビデ^{にい}を兄
さんのところ^いに行^いかせました。



あれっ！ものすごくでかいペリシテ人がいますね。かれの名まえは、ゴリアテ。
イスラエルの兵士たちをととてもこわがらせていました。



「やい、イスラエルの兵士ども！おまえたちの中から1人えらんでおれのところへつれてこい！」ゴリアテは、大きな声でさげびました。「もし、そいつがおれ

と戦って、おれをころしたなら、われわれペリシテ人はおまえたち

イスラエルに仕えよう。だが、もしおれが勝ったなら、イスラエルは、ペリシテにつかえるのだ。わかったな！」ほんとうに

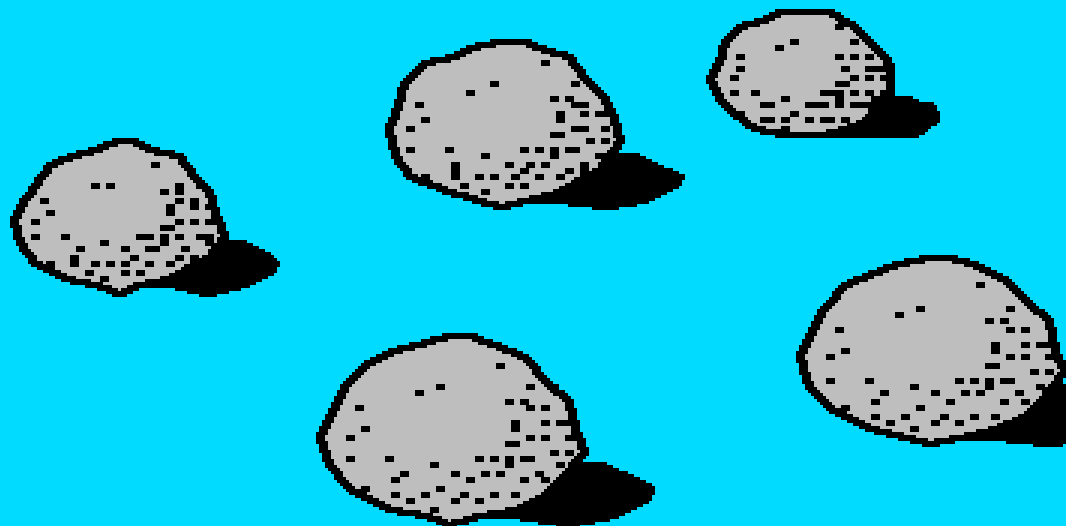
大きくて強そうです。

イスラエルの男たちは、「ああ、おそろ

しい！」と言って、みんな急いでにげましたよ。



ゴリアテのことを知^しったダビデは、サウルに言^いいました。「王^{おう}さま、イスラエ
ルは、ゴリアテなどこわがることはい^めないのです。あなたの召^めしつかいであるわ
たしが、ゴリアテの^いところへ行^いって、やっつけてまいりま^おしょう。」そこで、
サウルは、自分^{じぶん}が戦^{たたか}うときのよろい^いや、かぶと^{かたな}、そして刀^{かたな}をダビデにわたし
て、それら^{つか}を使う^いように言^いいました。でもね、ダビデはゴリアテとたたかうの
にサウルのかぶと^{かたな}や、よろい^{つか}や刀^なを使^{つか}わなかつたのですよ。じゃ、何^{なに}を使^{つか}った
のでしょ^おう。小川^{おがわ}でひろ^いったつるつるした5つ^いの石^いと、石^いなげ器^いです。それら
をも^いってゴリアテの^いところに行^いったのです。



「ハッ、ハッ、ハッ、なんてちっ小っぽけなやつだ。それに、よろいもかぶともつておおごえないじゃないか。」ゴリアテは大声でわらいました。そして「おまえのからだ

をバラバラにして、空をとんでいる鳥や、
野原をウロウロしているけものたちのえのほらさにしてやろう。さあ、かかってこ

い！」と言ってどなりちらしました。そこでダビデは、「わたしは、ただ主の名により、あなたのところにやってきたのです。」

と答え、こう言いました。

「今日、主はあなたをわたしに任せられ、勝たせてくださるでしょう・・・。このたたかいは、主のものなのです。」



さあ、ダビデはゴリアテにむかってまっすぐに進んでいきましたよ。ダビデ
は、走りながら、石なげ器から1つの石を、ゴリアテにむかって投げつけまし
た。それは、ちょうどゴリアテのひ

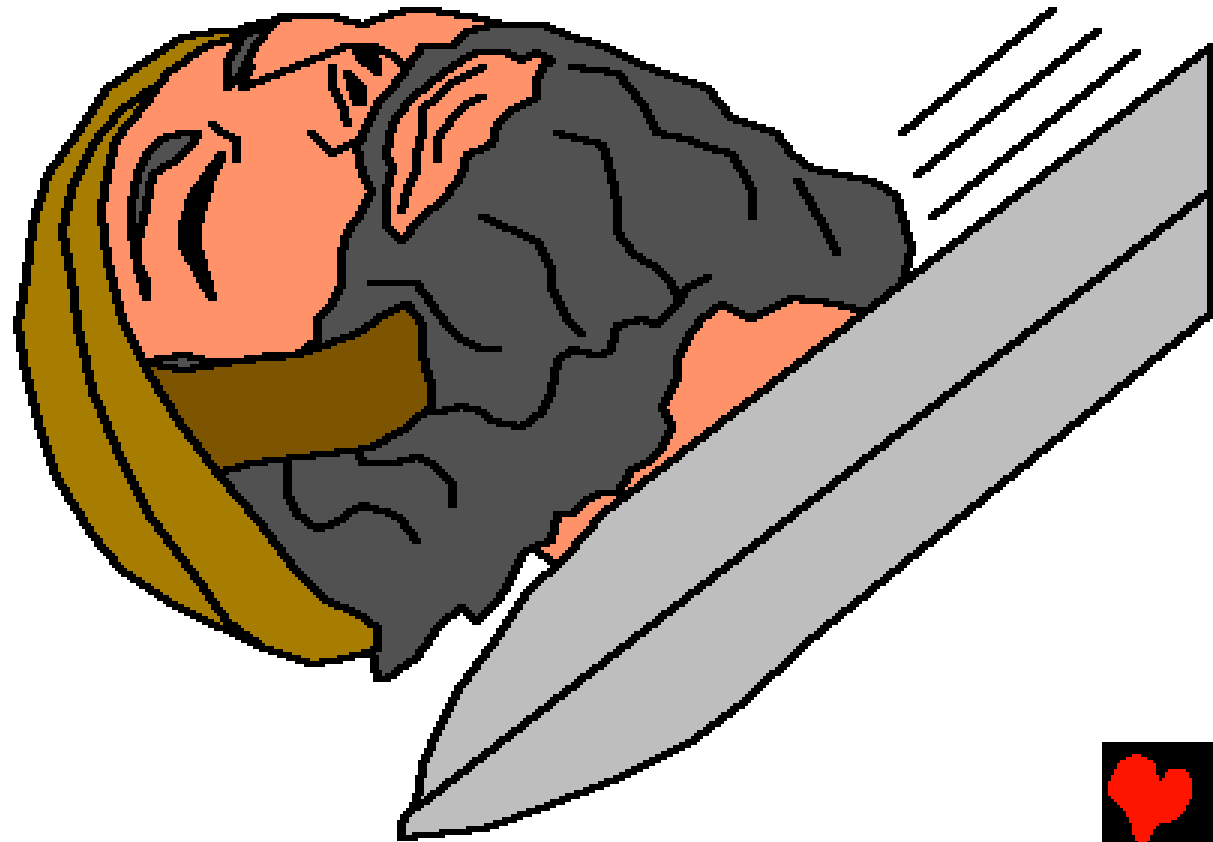
たいにめい中したのです。

ドシン！ものすごい音です。

あっ、ゴリアテは地めんじ
ひっくりかえっていますよ。



ダビデは、すぐにゴリアテの大きい大きい刀^{おお おお かたな}をとりあげ、かれのあたま^きを切り
おとしました。大きなゴリアテが死んでしまったのを見たペリシテ人、みんな
びっくりです。「わあ、たすけてくれー。」^{おお し み}と言いながら、いちもくさんに
にげていきました。



そのとき、サウル王は、ゴリアテをやっつけた人が、前にハーブをひいて自分を
なぐさめてくれたダビデとは、まったく気づきませんでした。あとでそのことが
わかり、きっとおどろいたことでしょうね。それから、

サウルはダビデを自分の軍たいの長として、
はたらいてもらうことにしました。ところが、

それからサウルとダビデの仲がだんだ
ん悪くなっていくのです。



たたか か ひとびと

ダビデが戦いで勝つたびに、人々はダビデをほめたたえるようになったからです。サウルは、ダビデにしっとし、こう言ってにくしみはじめたのです。「いま

い

やダビデは何でももっているじゃないか。わたしの

おうこく

なん

王国のほかは何でも・・・」サウルは、

しん

ダビデを信じないで、いつもうたがいと

こころ

み

にくしみの心をもって見つめるよう
なりました。



こころ

またしても、サウルの心にはやすらぎがなくなっていました。そこでダビ

こころ

おんがく き

デは、サウルの心をなぐさめようと、うつくしい音楽を聞かせましたよ。とこ

おと き

さんかい じぶん

ろが、「あっ、あぶない！」サウルはそのきれいな音を聞きながら、3回も自分

な ころ

のやりをダビデに投げつけ、殺そうとしたのです。

でも、そのたびにダ

ビデは、そのやり

ますますダビデがお

からうまくにげることができました。サウルは、

しゅ

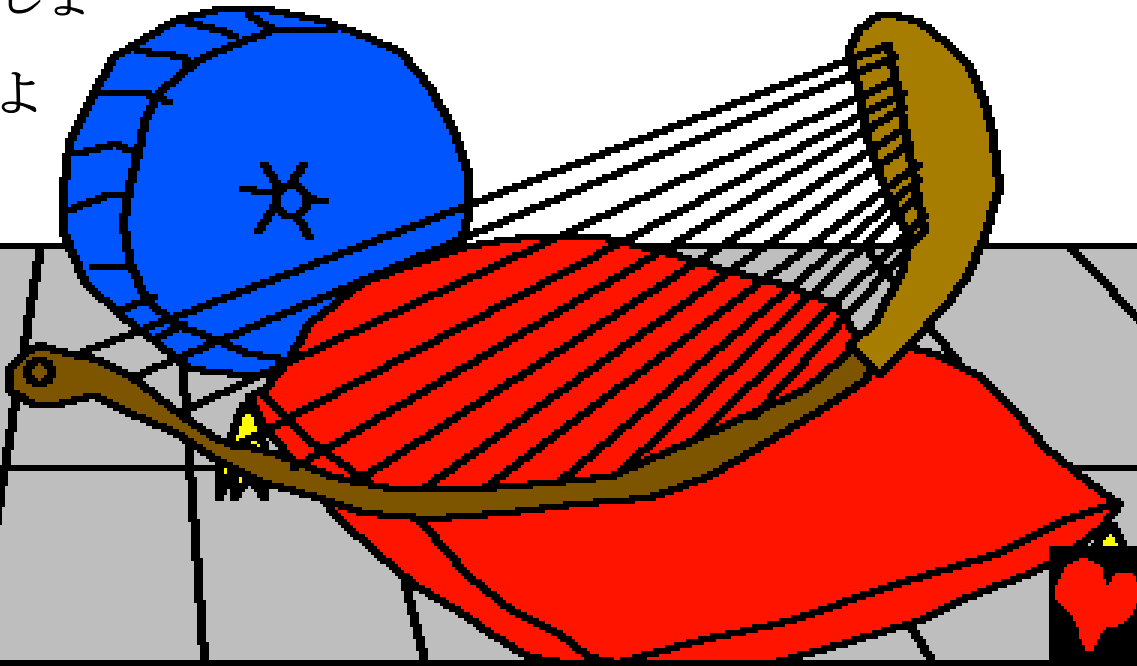
そろしくなりましたよ。どうしてって、主はサウルからは、はなれてしまったけ

れど、ダビデとは、いつもいっしょ

まも

にいて、守っていられることがよ

くわかったからです。



ところが、サウルのむすこヨナタンは、^{だいす}ダビデが大好きでまるでほんとうの兄さん^{にい}のように^{おも}思っていました。あるときヨナタンは、^いダビデにこう言いました。

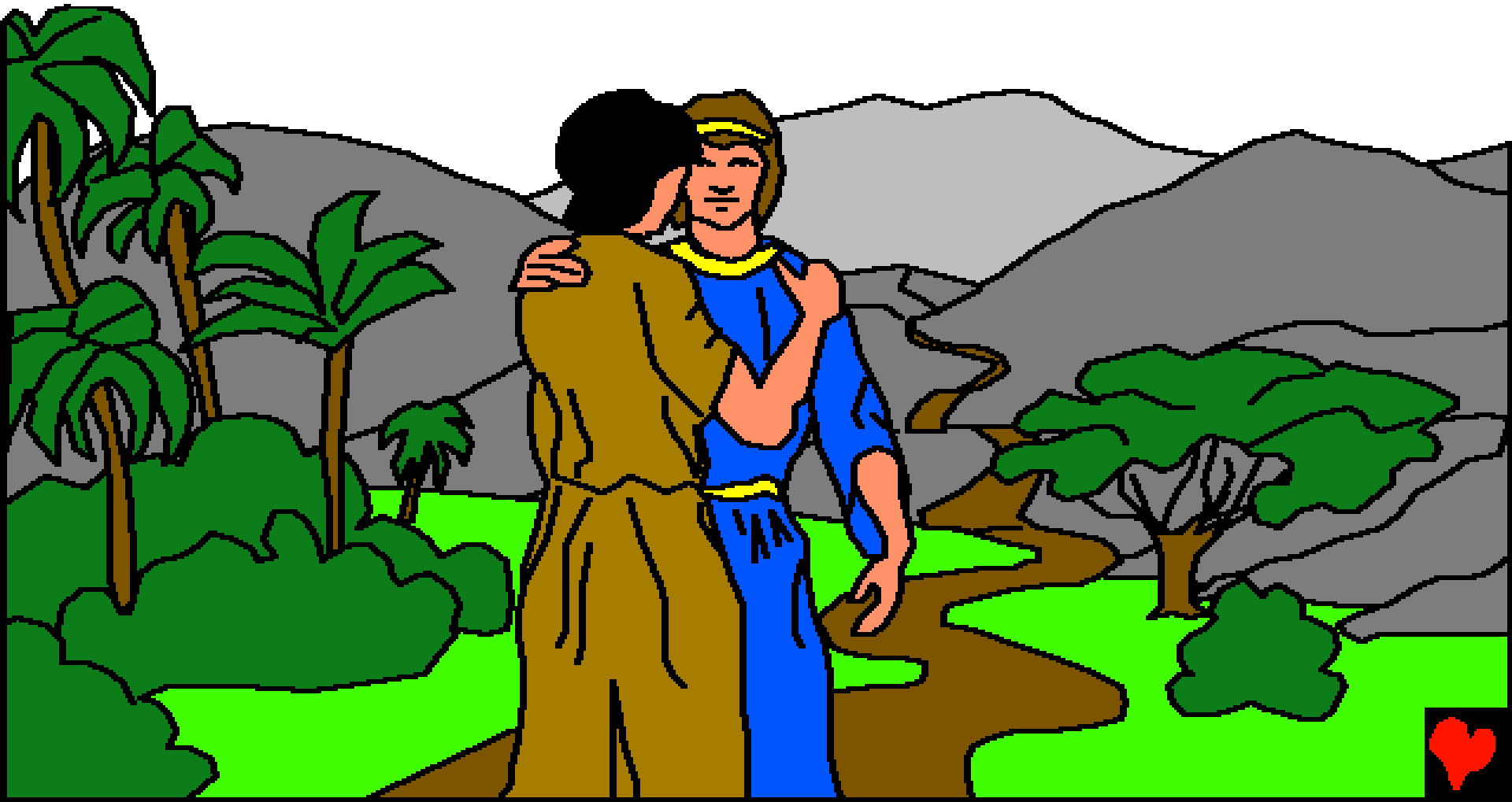
「^き気をつけて！^{とう}ぼくの父さんは、^{ころ}あなたを殺そうとさがしまわっています。」そこで、^{いそ}ダビデは急いでにげることにしました。じつは、^{なか}ダビデのおくさんは、^{にんぎょう}かれのベッドの中に人形^いを入れておいたのです。そして、^{よなか}ま夜中に^おダビデを^{つか}まどからつり下ろしに^{つか}がしてくれました。さて、サウルの使いがきて、^{ころ}ダビデをつかまえて殺そうとしたのですが……。ダビデはもうベッドにいませんでしたよ。



ダビデはサウルからののがれて、とおいとおい^{ところ い}所に行かなくてはなりませんでした。
た。ダビデがにげる前^{まえ}、かれとヨナタンは、おたがい^{なん}に何どもしっかりとやくそく
くしました。そのやくそくっていうのはね、「これからも2人は、いつも助け^{ふたり たす}
合^あっていこう！」というものでした。



かなしいことに、この2人はそれからすぐに「さようなら」を言わなければなりませんでした。ダビデは、これから生きていくところをさがしに出発したからです。もうサウルの兵士に見つからないところをさがしにね。



しょうねん
ひつじかいの少年、ダビデ

かみ み せいしょ しる
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

きじょう しょう しょう
サムエル記上 16 章 -20 章

み ひら ひかり あた
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、
おも
思っています。

かみ わたし かみ
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、思っています。それを、神さま
は、罪とよばれています。その罪のむくい、死です。

かみ あい ひとり こ
けれども、神さまは、あなたをとて愛していますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ
よ おく つみ し
の世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれども
それから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのです。もし、あなたがイエスさ
しん
まを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさま
いま ところ き なか す
は、今、あなたの所へ来て、あなたのところの中に住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさ
まといっしょに生きることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってください。
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な
愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなっ
てくださいました。そして、よみがえって、いま生きて
わたし なか き つみ わたし いま
いらしています。どうか、私のところの中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、あた
らしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにいる
ことができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることができますよう、たす
けてください。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

